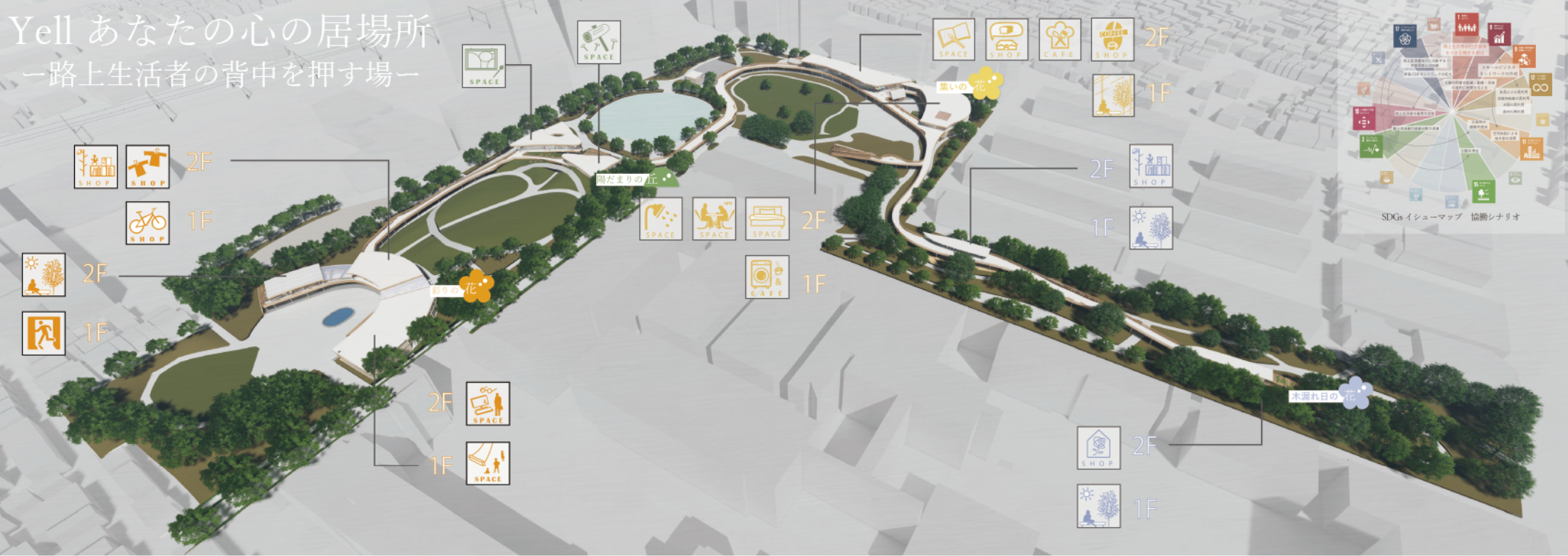


Yell あなたの心の居場所 一路上生活者の背中を押す場ー

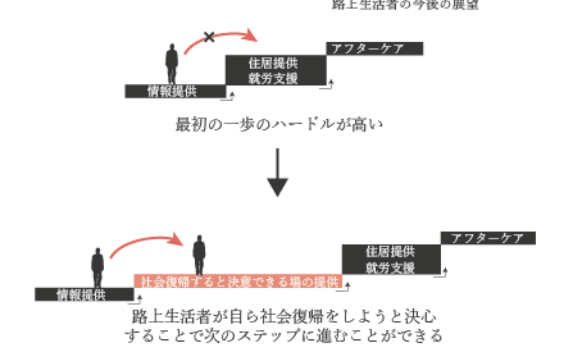


01.研究動機

東京都は2024年までに「自立の意思を持つ全てのホームレスを地域生活へ移行」を目指すとしている。この方針を契機に、新宿中央公園や宮下公園（現 MIYASHITA PARK）では開発と共にホームレスが排除された。しかし、その公園の近辺では排除されたホームレスが未だ路上生活をしているのを見かける。私は、都市の再開発により排除されていくホームレスが現在も居場所を探し、街の隙間で暮らしていることに疑問を感じ研究を始めた。

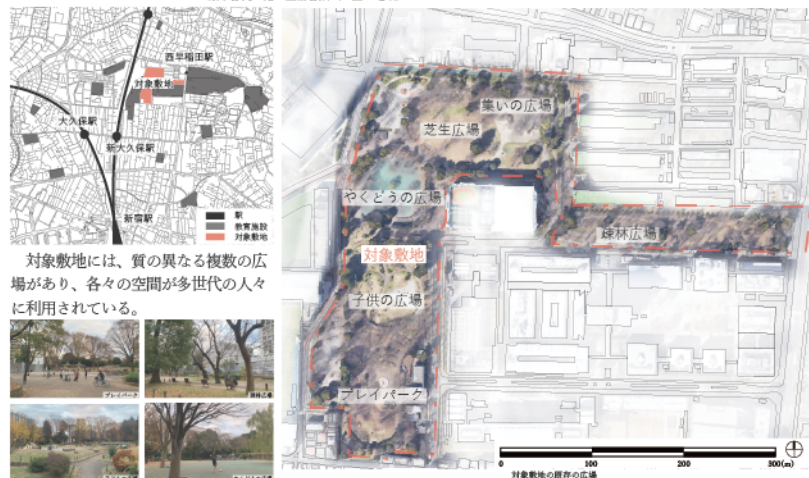
02.問題提起

社会復帰を志す約50%の路上生活者が、様々な理由で社会復帰する決心がつかないことがわかった。従って路上生活者に一方的に支援を行うのではなく、路上生活者が社会復帰をできる機会を創出することが必要であると考えた。



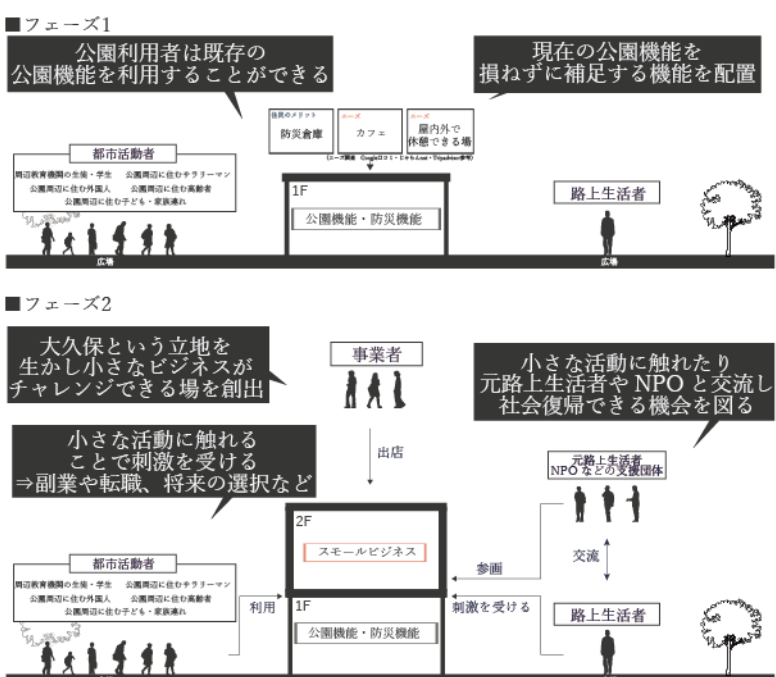
03.対象敷地

東京都内で新宿区の路上生活者が最も多い。新宿区内では新宿駅周辺と新宿中央公園周辺、東京都立戸山公園（大久保地区）に多いとされる。彼らが社会復帰する機会を創出するためには、路上生活者から親しみやすい場が最適であると考え、東京都立戸山公園（大久保地区）に選定した。



04.プログラム

対象敷地で路上生活者の社会復帰できる機会の創出を行う上での「近隣住民や公園利用者にメリットがあること」「現在の公園機能を損ねないこと」「経済的に持続可能であること」の課題を以下の手段で解決を行う。

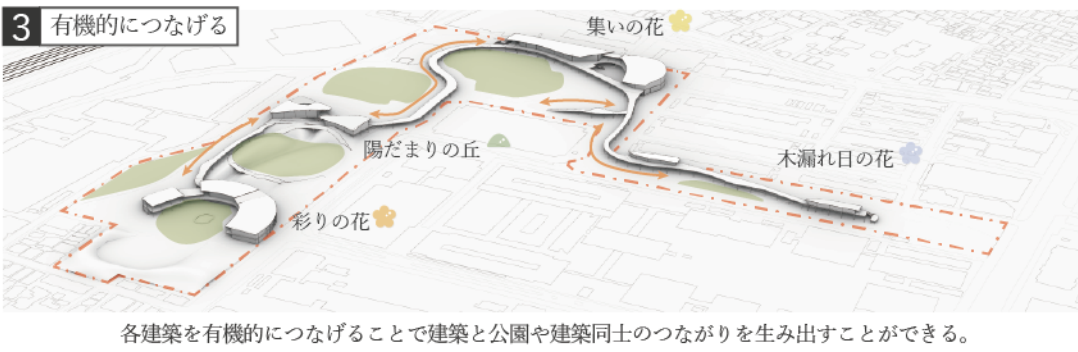
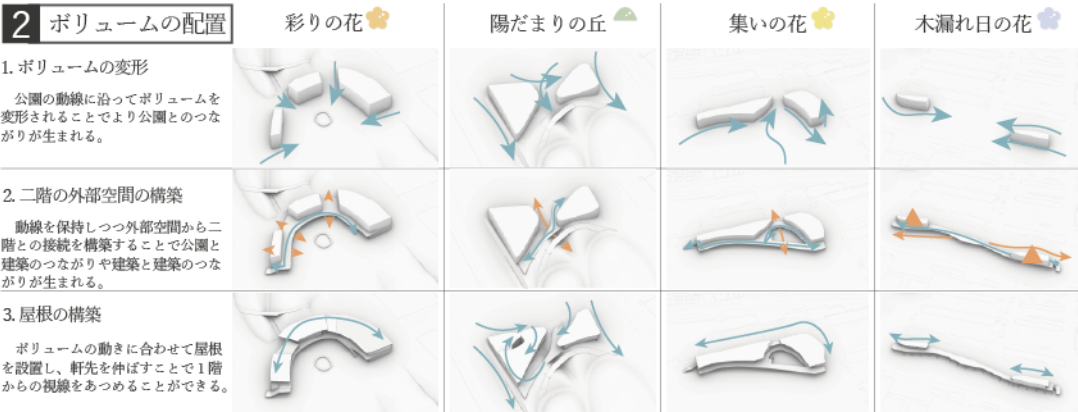


05.建築に求められるもの



06.建築と公園の共存

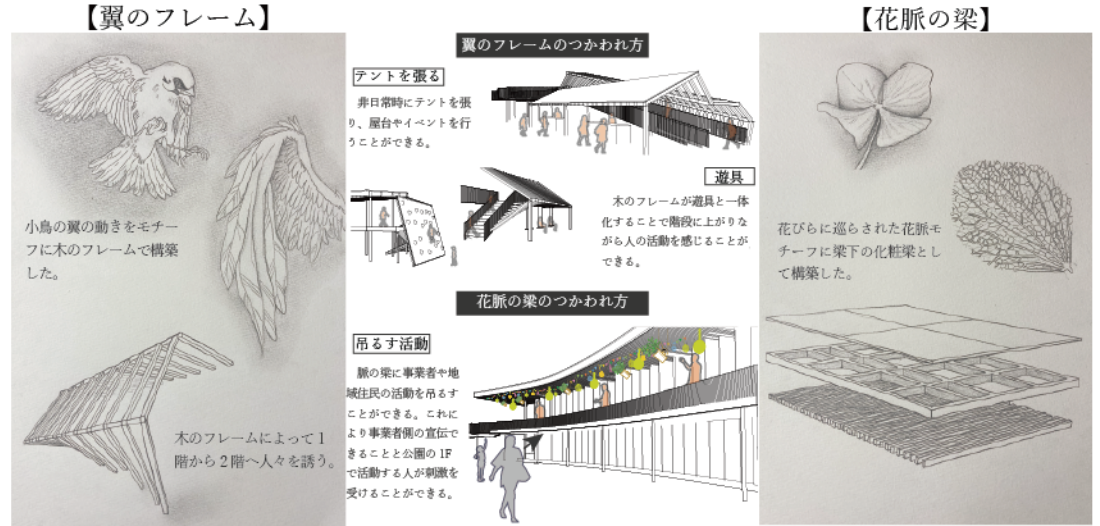
既存の公園の各広場や動線を保持し、提案建築と公園との共存を図った。既存の公園機能を補完するように建築を設計し、既存の公園機能を保ちつつ、新たな公園の価値を創出した。



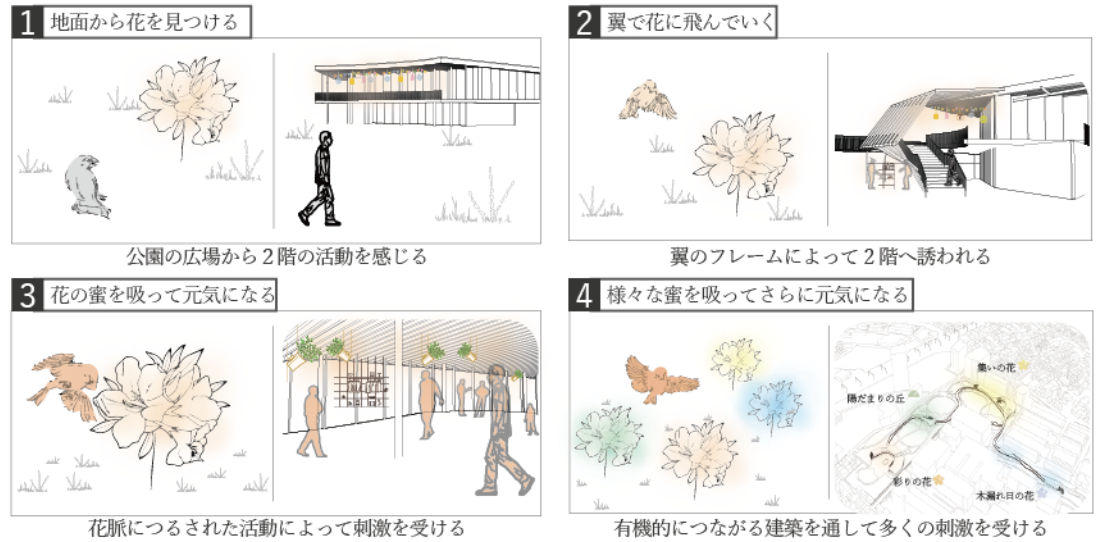
07.花の蜜を吸う小鳥

都市活動者や路上生活者などの公園利用者を2階へ誘い、活動を促進させるために「花の蜜を吸う小鳥」をモチーフにデザインと空間体験のストーリーを同期させた。これにより、花と小鳥の関係のように事業者と公園利用者の双方向的なメリットを創出することができる。

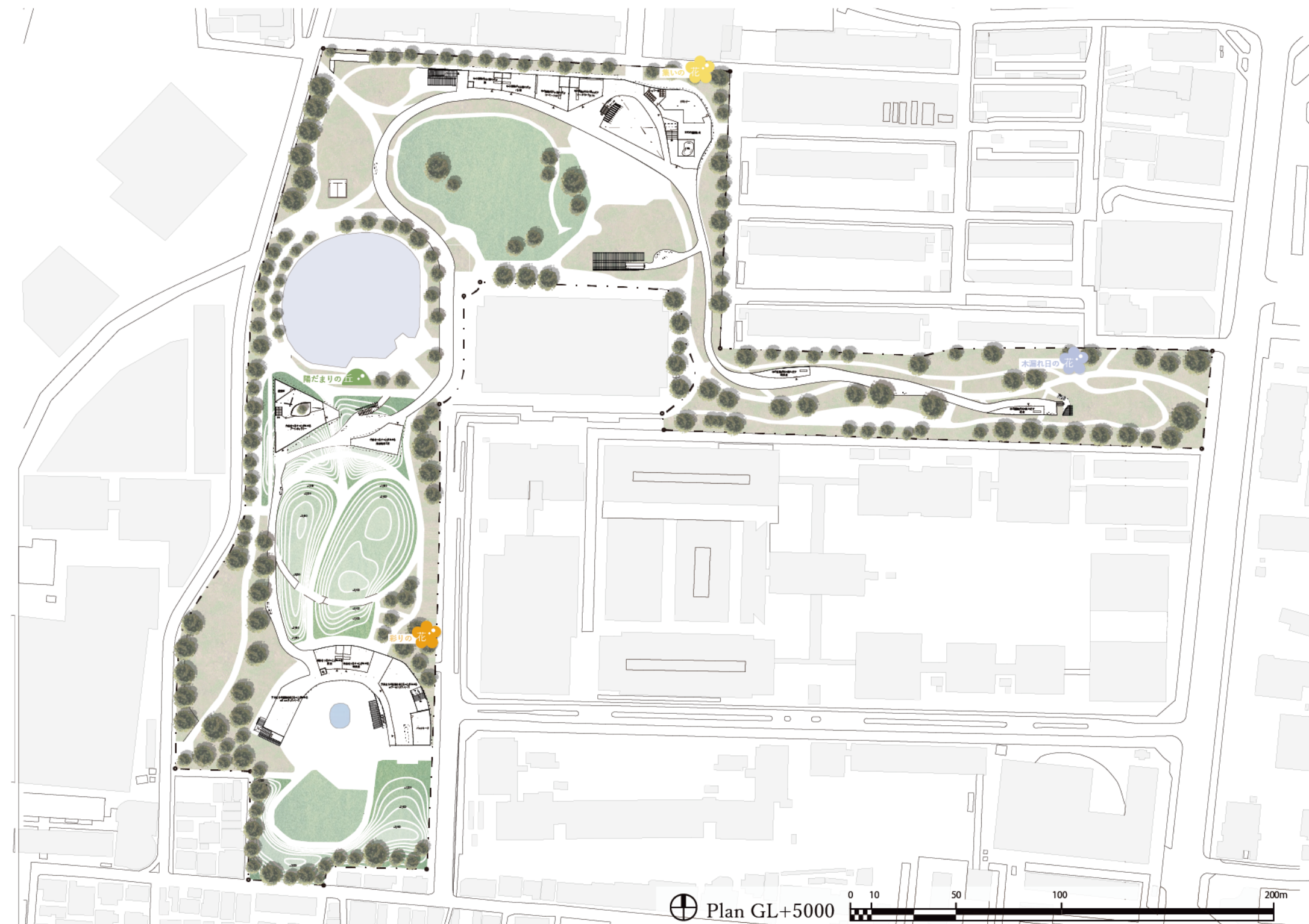
■小鳥の翼と花脈をモチーフにしたデザイン



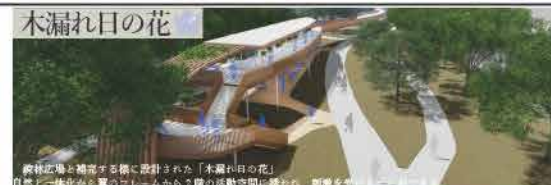
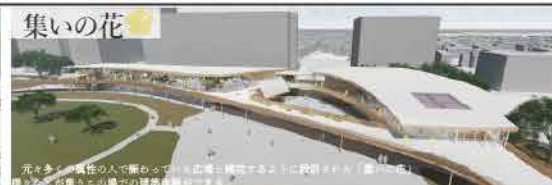
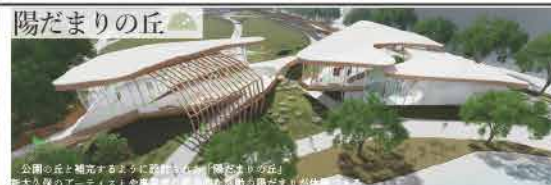
■花の蜜を吸う小鳥のストーリー



08.平面図

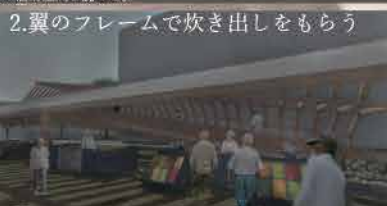


09.都市活動者の空間体験



10.路上生活者の心の居場所ストーリー

1.既存の公園機能を利用



7.社会復帰・社会貢献し地域を活性づける



4.花脈の梁に吊るされた活動を感じる



5.NPOや元路上生活者と交流する



6.支援を受ける

